

連符にもいろいろな種類があります。2拍3連をはじめ、3拍子に4連が入ったり、ジャズ・ワルツの中に16分音符が入ったりすると、合わせにくくなるものです。微妙なニュアンスを掘んで軽やかに弾きこなせるようにトレーニングしていきましょう。

check!



check!

138
365

ジャズ・ワルツと3連の融合

Track 142

♩ = 90

アドリブ風のフレーズなので、ガチガチに合わせようとするよりは、さらりとニュアンス重視で軽やかに弾きましょう。



check!

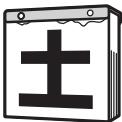
139
365

3拍子と4連の組み合わせ

Track 143

♩ = 90

4連符は一見難しそうですが、考え方は1小節目の通りです。1、2小節のリズムは同じで、表記が違うだけと考えればラクになりますね。



check!

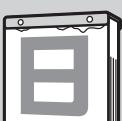
140
365

超難関トレーニング！

Track 144

♩ = 90

縦に揃うのは拍頭のみで、ほかは全て音の間に入れてください。右手の16分音符をキープ(基準に)して左手の3連を食い込ませていく方法と、左手の3連をキープして16分音符を食い込ませていく、2種類の練習方法があります。



音価と音楽表現について考えてみる

デジタル環境で音楽を打ち込んでデータを作る場合、4分音符は1拍を480分割できることになっており(今や960分割できるものもあり!)、8分音符なら240、16分音符は120分割の中で長さを表現します。

そうなると、分解能(最小単位)が非常に細かいので、どんな連符も明確な収め場所を見つけることができます。ニュアンスもリアルに細かくつけられるでしょう。実際に、人間が8分音符を弾いたものをリアルタイム録音してデータに変換してみると、正確に120ピッタリの数値分伸びていることはほとんどありません。

118とか122とか、微妙な数値になっていることがほとんどです。しかしそれこそが、ヒューマナライズされた心通う音楽であると言えるのかもしれませんね。

ですから連符についても難しく考え過ぎる必要はありません。人の表現するもの、という意識を忘れずに、大枠で収まりの良い、気持ちの良い音楽を目指しましょう。